

美郷村の屋敷神について

史学班 (徳島史学会)

湯浅 安夫*

屋敷神とは、屋敷の片隅や付近の付属地に祀られている土地の守護神をいう。各家にある場合と特定の旧家にだけある場合がある。祀られる神は、祖先神、稲荷、明神、熊野、ふなと神など雑多である。屋敷の西南隅に祀られているのが普通で、木や石を神の所在を示すためのしるしとしたものや、小祠を祀ったものもある。祭りは旧2月と旧10月あるいは11月の年2回、あるいは秋のみ1回というのが多く、この春秋2回の祭りは全国的に伝承されている田の神と山の神の交替期にあたり、屋敷神と田の神・山の神との関連を示している。また、祖霊を屋敷神として祀る土地もあり、屋敷神と祖霊の関連を示しているともいわれる。

さて、美郷村における屋敷神の所在であるが、古土地や恵美子・湯下地区にたくさんある。次ページに、その屋敷神について家々がどのように祀るかなどをまとめてみた(表1)。表のように、古土地の後藤田家一統と北地家一統、湯下では猪井家一統が屋敷神を祀っている。古土地というのは、地名の通り村では最初に開発された土地という意味だそうで、古くから開かれた土地に屋敷神は祀られている。表最初の後藤田誠二家では、母屋の南の田の東南端に「オヒマチさん」とよんでいる幅・奥行き・高さ各40cm位の石の祠がある。その中にご神体の丸い石が祀られていて、オヒマチの日に祭るのでそうよばれるそうである。後藤田君子家では、母屋の北東に「剣山」、「弁天さん」という木製の祠があり、東南に「オフナツツさん」と呼ぶ神さんが石の祠に祀られている。後藤田茂夫家では、古い屋敷の北西の田の畔に石の

祠の「オフナツツさん」があり、南東の山中にセメント製の「山の神」と「八剣さん」という木製の祠がある。川向かいの後藤田理子家では、屋敷の東南隅に石の祠の「オフナツツさん」と並んで「出雲はん」の木製の祠があり、少し東上に離れて「若宮さん」がある。後藤田喜代子家では、屋敷の東南隅に「オフナツツさん」が祀られていたが、農道が通ってどこかへ移して行方不明とのことである。次の北野ヨシ子家では、屋敷の東方20m位の柿の木の根元に「オフナツツさん」が祀られている。北地儀一郎家では、家屋の西北の山麓に木製の「八剣さん」、二つの「オフナツツさん」が石垣の上に並んで祀られている。その隣りの北地正武家でも母屋の東側に「オフナツツさん」が二つと石仏が祀られている。

古土地の西の恵美子地区も屋敷神は多く、山本静子家では石の、後藤田照一家ではセメントの祠の「オフナツツさん」が祀られている。柴高マツエ家では「イチチェはん」という石の祠の中に木の祠が祀られている。湯下地区では、猪井家一統が「猪彦神社」というご先祖はんを祀り、猪井貞子家では、母屋東の石垣の中に「オフナツツさん」を祀り、猪井照美家では、母屋の南に「オフナツツさん」を祀っていたそうであるが、今は祠はない。

他に旧家といわれる古い家に屋敷神は祀られているようである。別枝の蔭の川村忠雄家は、「サマノカミ」という先祖の武将の墓が母屋の東側に建立され、先祖神として拝まれている。平地区では、明石利男家で「ご先祖はん」と呼ばれる木製の立派な祠が祀られている。明石力家では、先祖神「カモンノ

* 徳島市住吉1丁目9番29号

カミ」を祀っていたが、明治末期の神社合併のとき、平八幡へ併合したそうである。種野の旧家明石博雄家では、母屋の東側に「ご先祖はん」とも言われる「和霊神社」があり、北方の山の中に「オフナツさん」と「荒神さん」が並んで建てられていて、どれもセメント造りである。さらに、市野々の北野朝子家では、屋敷の西に朱塗りの「お稲荷さん」とい

う木製の祠が建立されている。

以上、美郷村の屋敷神は、古くから開拓の進んだ土地と、旧家といわれる古い家に祀られている。祭神は「オフナツさん」と呼ばれる「ふなと神」が多いようである。そして、どこも同じように、次第に祀らなくなり、祠が除かれたり廃棄されたりされているのが現状のようである。

表1 屋敷神一覧表

場所	話してくれた人	名称	形・位置	祭の日・供物など
古土地	後藤田誠二 (88歳)	オヒマチサン (ご神体は石)	石の祠 (自然石) 屋敷南の畑の東南隅	正月3ケ日 しめかざり お神酒・供物
古土地	後藤田君子 (72歳)	剣山 弁天さん オフナツサン (ご神体は石)	木製の祠 (屋敷東北に並立) 石の祠 (屋敷東)	正月7日間 しめかざり お神酒・供物 ツゲの木の箸 (7日目)
古土地	後藤田茂夫 (65歳)	オフナツサン (ご神体は2石) 山の神さん 八剣さん	石の祠 (屋敷東南) セメントの祠 木の祠 屋敷南の山の中	正月3ケ日 しめかざり お神酒・供物 ご飯を12に分けてまつ。
古土地	後藤田理子 (73歳)	出雲さん オフナツサン 若宮さん	木の祠 (屋敷の東南) 石の祠 (同) 石の祠 (屋敷東方の山の中)	正月1日だけ しめかざり お神酒・供物 ツゲの箸 出雲さんは毎月15日に祭っていた
古土地	北地ヨシ子 (70歳)	オフナツサン (ご神体は石)	石の祠 屋敷東方の柿の木の下	正月3ケ日 しめかざり お神酒・供物をしていた。今は祭っていない。
古土地	北地儀一郎 (71歳)	八剣さん オフナツサン (ご神体は石)	木製の祠 セメントの祠2つ 屋敷北西の石垣の上	正月元旦 しめかざり お神酒・供物
恵美子	山本 静子 (72歳)	オフナツサン (正月に祭るので正月の神さんともいう)	石の祠 屋敷南の隅	正月1日だけ お神酒・供物 しめかざりはしない
恵美子	柴高マツエ (88歳)	イチチュはん 田の中にあつたのを移転	石と木の祠 屋敷より約20m下の田の畔	正月1日だけ しめかざり お神酒・供物
湯下	猪井 貞子 (81歳)	ご先祖はんといっている猪彦神社がある。 オフナツサン	木製の祠とセメントの祠が2基 (積み石の台の上) 石の祠 (石垣の中)	秋祭10月26日 15~16軒の氏子がお祭する。 お神酒・供物 11月16日綿を高黍 <small>きび</small> の箸に巻いて祭る。
湯下	猪井 照美 (68歳)	オフナツサン	母屋の前に石の祠	正月におしめ・お神酒・つげの箸に半紙をまきシキミをさす。
蔭	川村 忠雄 (65歳)	左馬亮 (南北朝時代の有力武将)	先祖河村左馬亮の墓 母屋の東に並んで立つ	6月1日 供物 (海の幸・山の幸・お菓子など) 神主さんに拝んでもらう。
平	明石 力 (87歳)	ご先祖はん カモンノカミ	木製の祠 平八幡神社境内 近くの持ち山に祭ってあつたが、八幡神社に合併 (明治末期)	お神酒・供物 6月9日 平八幡神社の秋祭の時、神主さんに拝んでもらう。その時、分家も参加
平	明石 利男 (75歳)	ご先祖はん	木製の祠 屋敷の東南隅	お神酒・供物 10月24日 平八幡神社の秋祭の時、神主さんに拝んでもらう。その時、分家も参加

種 野	明石 博雄 (78歳)	和霊神社 (神体は鏡) オフナツサン 荒神さん	セメントの祠 (屋敷東) セメントの祠 (屋敷北) 同	戦前までは神主にきてもらって拝んでもらっていたが、今は何もしていない。
市野々	北浦 朝子 (70歳)	お稲荷さん	木製の朱塗りの祠 屋敷の西側 (白蛇が神のつかい)	旧2月の初めての巳の日。正月元旦 お神酒・供物



後藤田誠二家のオヒマチさん



後藤田茂夫家のオフナツさん



柴高マツエ家のイッチェはん



北地儀一郎家のオフナツさん



明石利男家のご先祖はん



北浦朝子家のお稲荷さん

文 献

歴史教育研究所 (1977復刻) : 『郷土史研究辞典』 歴史図書社。
朝日新聞社・岡見璋 (1974) : 『日本の民族』 朝日新聞社。

井上達三 (1975) : 『柳田国男集』 筑摩書房。
西谷能雄 (1987) : 『宮本常一集』 未来社。
美郷村史編集委員会 (1969) : 『美郷村史』 美郷村。
松茂村誌編集委員会 (1976) : 『松茂村誌』 松茂町長中川武夫。